

※これまでの検討委員会における御議論等を踏まえ、たたき台を作成

鹿児島県総合政策部スポーツ施設対策室

現状・課題	需要予測調査結果
<p>（現体育館の現状・課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現体育館は、築後60年以上経過し、老朽化が進んでいる。 ●全国・国際大会レベルの競技大会の開催には狭隘である。 <p>⇒ 県大会等のスポーツ大会が各市町村立体育館で分散開催されており、効率的な大会運営ができていない。 全国・国際大会の誘致に支障が生じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の利用割合は、メインアリーナでスポーツ利用が概ね76%~87%、 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会：概ね43%~51% ・県民利用：概ね30%~35% ・プロスポーツ利用：概ね2%~3% <p>⇒ スポーツ利用が約8割となっており、その中でも県大会等のスポーツ大会が半分以上を占めている。</p>

施設の機能

基本的な考え方

現体育館の現状・課題や、需要予測調査結果を踏まえ、新総合体育館は、「する」スポーツをベースとした、アスリートファーストの施設とする。

スポーツ振興の拠点機能

- 屋内スポーツ競技の中核的な施設（聖地）として、県大会をはじめとする各種大会の円滑な運営や、全国・国際大会の誘致が可能な施設とする。
※スポーツ大会以外の県民利用は、主にサブアリーナを活用
- 県民が一流のスポーツイベントに触れる機会を創出するほか、他県施設との差別化、市町村との役割分担の明確化、サステナビリティの視点から「みる」スポーツにも対応できる施設とする。
- スポーツ科学の研究・提供機能（鹿屋体育大学等との連携を検討）、スポーツ情報発信機能、スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能など、本県のスポーツ振興を「ささえる」人材を育成する施設とする。

このことにより、

- ①競技力の向上や競技人口の増加を図る。
- ②県民、とりわけ将来を担う鹿児島の子供達に良質なスポーツ環境の提供を図る。

多目的利用による交流拠点機能

- 上記のとおり、スポーツ振興の拠点機能を軸とするが、これに加え、コンサート・イベント等の開催を通じ、スポーツをする人もしない人も、また、様々な年代の人々が交流できる施設とする。

このことにより、賑わいの創出や経済波及効果など地域活性化とともに、施設の収益性にも寄与する。

大まかな施設の規模・構成

施設の規模・構成の考え方

- 「する」スポーツに適した施設構成として、**メイン：バスケット4面、サブ：バスケット2面、柔剣道場：各2面、弓道場**を想定
- 「みる」スポーツにも対応するため、**関係者控室やメディア対応等に必要の諸室を充実**
- 観客席（最大収容人数）については**、将来的な国際大会等の誘致を見据えるとともに、コンサート需要を踏まえ、**8千席程度**を想定

各施設構成ごとの概要

競技フロアや観客席、諸室等については、需要予測調査のほか、大会の運営状況や各種基準等を踏まえ、必要最小限の規模を記載。
これらは、整備予定地の決定後、施設のレイアウトを検討する中で具体的に検討

検討に当たっての視点

- 選手、観戦者などあらゆる利用者にとって快適な環境づくり
- 障害者や高齢者を含む全ての利用者が公平に使用できるよう配慮
- 最先端の情報ネットワーク環境や映像・音響装置など、施設の付加価値を高める設備の検討
- 他県施設との差別化や「みる」スポーツの視点から、競技スペース以外の部分（ホワイエ、飲食スペース等）や諸室・空間の環境整備等にも配慮
- 施設の財政的な持続可能性にも寄与する機能の担保

メインアリーナ

- 競技フロア：バスケットボールコート4面、フロアサイズ：(46.0m×81.0m)+a
- 観客席（最大収容人数）：8千席程度

サブアリーナ

- 競技フロア：バスケットボールコート2面、フロアサイズ：(34.0m×46.0m)+a
- 観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

柔剣道場

- 競技フロア：柔道場2面・剣道場2面（計4面）、フロアサイズ：(29.0m×29.0m)+a
- 観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

弓道場

- 近的12人立、遠的6人立 ○観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

諸室

- 器具庫、更衣室、会議室、VIP室 ○必要面積：5,355㎡±a

その他

- スポーツ科学の研究・提供機能（例：鹿屋体育大学のサテライト）
- スポーツ情報発信機能（例：スポーツ博物館、ライブラリー機能）
- スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能（大会期間外も含めた総合支援拠点）
- 健康増進（ヘルス）サービス機能（ウェルネス情報発信）
- 競技者以外でも気軽に来場できる仕組みづくり（ファミリーシートの設置など） など